

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	進路・就労準備型放課後等デイサービス ODEN		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日	～	2026年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 20人	(回答者数)	13人
○従業者評価実施期間	2026年2月1日	～	2026年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月3日		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフの結束力があり、ミーティングを通して情報共有を図っていること	支援開始前後の打ち合わせを行い、日々の気づきや役割分担をチームで確認し合う連携体制が意識されています。	共有された気づきをその場限りの情報交換で終わらせず、業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)として、広く職員が参画する仕組みへと定着させることが期待されます。
2	各種イベントの企画やプロジェクトの発案など、自主的な活動をしやすい環境であること	活動プログラムが固定化しないよう工夫し、中高生向けのカフェ運営やボードゲーム制作など、スタッフが主体となって魅力的な企画を生み出しています。	これらの自由で自主的な企画が、放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」にどう該当するのかを整理し、支援の意図をチーム全体で共通言語化していくことが必要です。
3	将来の就労や自立を見据えた、中高生向けの独自のプログラムの提供	移行支援を意識し、こどもの支援に必要な項目が適切に設定された具体的な支援内容を、「働く」リアルを伝える独自のプログラムとして落とし込んでいます。	学校を卒業し、次のステップへ移行する際、それまでのODENでの独自支援の内容や成長の軌跡を、的確な情報として提供する連携体制の強化が必要です。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1点	子どもごとの個別支援計画に基づいた細かな目標設定や、日々の記録に基づく検証が曖昧になりやすい点	プログラムの自由度が高く、いろんなことに挑戦する風土ゆえに、新しい目標が次々と出てきてしまいます。	日々の活動記録を徹底し、プログラム内容が支援計画のどの部分に結びついているのかを言語化して共有する仕組みづくりが必要です。
2	活動内容が多岐にわたり、かつ専門的であるため、職員間での事前準備や情報共有、スキル習得にかかる負担が大きいこと	導入するプログラムの質と専門性が高いため、職員の育成が追いつきにくい面があります。	職員の資質の向上を図るために、法人内等で研修を開催する機会を確保し、属人化を防ぐためのマニュアル化や手順のテンプレート化を進める必要があります。
3	新しいプロジェクトや外部連携に伴う、予見不可能なリスクや安全管理の手間の増大	カフェ運営や外出など、従来の室内活動の枠を超える挑戦的な活動が増えることで、想定すべきリスクが多様化し、事前準備にかかる工数が増大しています。	活動ごとにヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた検討を行い、新しいイベント用の安全計画やチェックリストをフォーマット化して、安全管理の仕組みを効率化する必要があります。